経営比較分析表（平成29年度決算）

福岡県　粕屋町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	77.13	97.56	3,610	

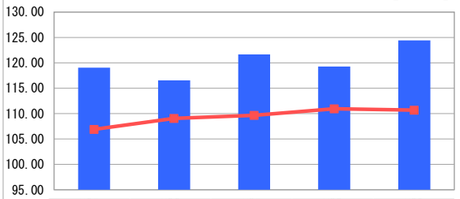
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
47,076	14.13	3,331.63
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
46,065	14.13	3,260.08

グラフ凡例
- ■　当該団体値（当該値）
- ー　類似団体平均値（平均値）
- 【】　平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【113.39】

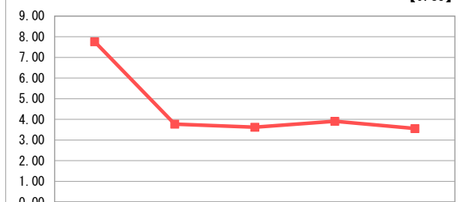


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	119.03	116.55	121.65	119.29	124.41
平均値	106.89	109.04	109.64	110.95	110.68

「経常損益」

②累積欠損金比率(%)

【0.85】

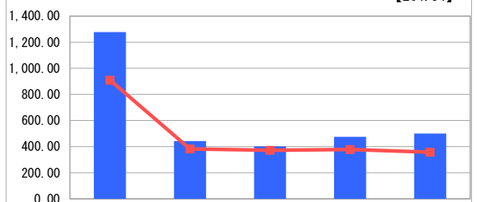


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	7.76	3.77	3.62	3.91	3.56

「累積欠損」

③流動比率(%)

【264.34】

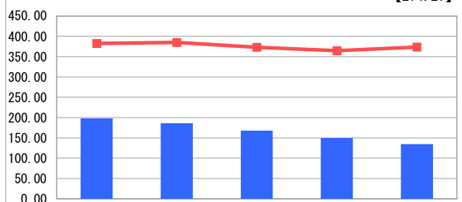


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	1,277.76	442.12	401.70	474.59	500.13
平均値	909.68	382.09	371.31	377.63	357.34

「支払能力」

④企業債残高対給水収益比率(%)

【274.27】

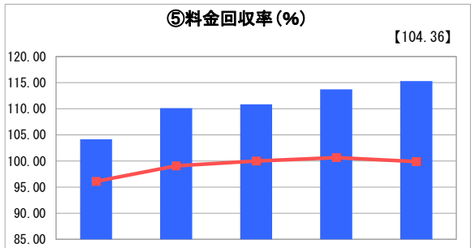


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	198.24	186.37	167.80	149.92	134.52
平均値	382.65	385.06	373.09	364.71	373.69

「債務残高」

⑤料金回収率(%)

【104.36】

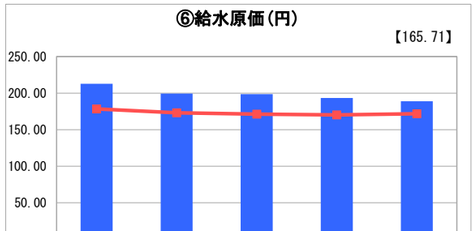


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	104.16	110.12	110.85	113.72	115.29
平均値	96.10	99.07	99.99	100.65	99.87

「料金水準の適切性」

⑥給水原価(円)

【165.71】

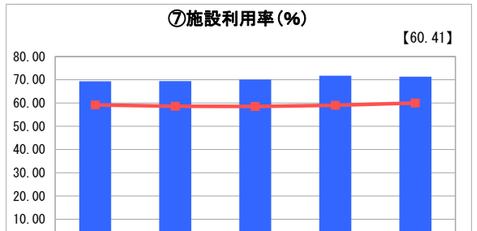


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	212.84	199.24	198.63	193.34	188.90
平均値	178.39	173.03	171.15	170.19	171.81

「費用の効率性」

⑦施設利用率(%)

【60.41】

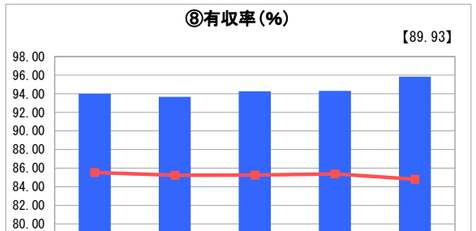


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	69.35	69.46	70.13	71.75	71.39
平均値	59.23	58.58	58.53	59.01	60.03

「施設の効率性」

⑧有収率(%)

【89.93】



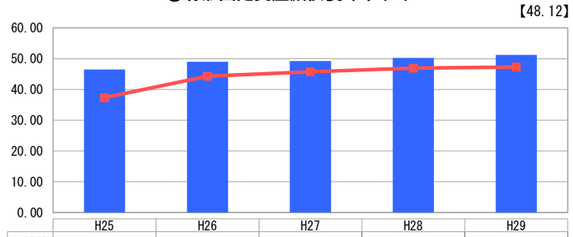
	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	94.00	93.67	94.26	94.30	95.83
平均値	85.53	85.23	85.26	85.37	84.81

「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

【48.12】

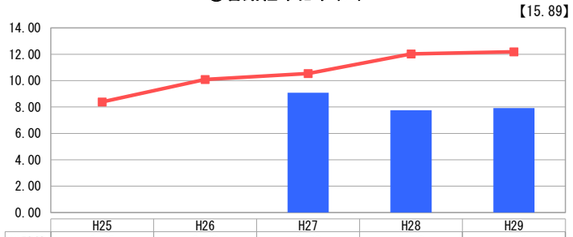


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	46.49	49.00	49.24	50.27	51.27
平均値	37.34	44.31	45.75	46.90	47.28

「施設全体の減価償却の状況」

②管路経年化率(%)

【15.89】

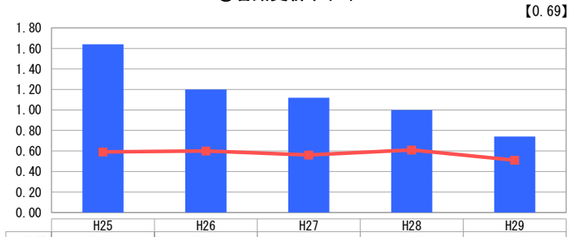


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	0.00	0.00	9.08	7.76	7.92
平均値	8.39	10.09	10.54	12.03	12.19

「管路の経年化の状況」

③管路更新率(%)

【0.69】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	1.64	1.20	1.12	1.00	0.74
平均値	0.59	0.60	0.56	0.61	0.51

「管路の更新投資の実施状況」

※　平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率・料金回収率共に100を超えており、経営状態は健全である。しかし、料金回収率の改善、給水原価の減少は、管路の更新が進んでいないことの影響も考えられる。今後更新事業が増加していくことが予測され、より健全な経営のために留保資金を確保する必要がある。

効率性については、施設利用率・有収率共に高く、効率的な施設運用がなされているといえるが、施設利用率の高さは運用に余裕がないことでもある。今後の人口の増加と施設の拡充のバランスを考えて投資していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

創設当初の管が耐用年数を経過してきて、今後、急激に経年管が増加することが予測される。管路更新率も類似団体と比べると高いが、減少傾向にあり、H29年度は更新率が１%を割っている。需要に応じた配水網の再構築ともに、計画的な管路更新の投資を行う必要がある。

全体総括

現状の経営状況は健全であると考えられるが、今後の人口の増加と管路の老朽化に対応するために、バランスのとれた計画的な投資を行う必要がある。

そのため、現在の経営状況を維持できるよう、効率的な経営を継続していかなければならない。